

# 平成 25 年度橋梁会見学旅行記

高知県橋梁会 会長 右城 猛

## はじめに

高知県橋梁会では現場見学会を毎年行っている。昭和 63 年からは隔年毎に 1 泊 2 泊の見学会を実施していたが、平成 19 年に餘部鉄橋を見学してからは日帰り見学を続けてきた。公共事業費削減の影響で会員会社が厳しい経営を強いられていたためである。平成 20 年を底に公共事業予算が増え始め、昨年度からは人手が足りないほど仕事が増えてきた。久しぶりに 1 泊 2 日で行くことにした。

今年は、出雲大社が 60 年振りの遷宮の年に当たる。出雲大社参拝を含む見学コースを企画した。

初日は、水島臨港道路の鋼管矢板基礎工事と、美咲町の旭 5 号橋の上部工架設工事を見学し、枕草子・三大名泉の 1 つである玉造温泉に宿泊。翌日は、日御碕灯台と出雲大社を観光し、島根ワイナリーで昼食。最後に「お菓子の壽城」で土産物を買って帰高する計画である。

## 水島臨港道路工事現場



現場事務所で、国土交通省中国地方整備局宇野港湾事務所の山本邦夫保全課長、臨港道路関連工事安全連絡協議会の本山喜章会長から工事概要の説明を受けた。

我々のために工事説明用図面、ペットボトルのお茶などが用意されていた。



栈橋上からの見学となるため、安全対策で全員が自動膨張式ライフジャケットを装着した。



栈橋の上で全員による記念撮影。



臨港道路の渡河部は、延長 2,564m の橋梁。高梁川を渡る箇所に建設している P18, P19 橋脚の鋼管矢板基礎の工事を見学した。

栈橋上には掲示板が設置され、工事概要、これまでの工事の経緯を示した図面や写真が展示されていた。それを見ながら、五洋・本間 JV の方から丁寧な説明を受けた。



伝言板にはこのような紙も貼られていた。



工事状況を分かり易く示した写真



我々の安全確保のために事前に周到な準備をされており、感動させられた。



見学後には質疑応答の時間も準備されていた。

## 旭バイパス 5号橋



事前説明を受ける美咲町の旭町民センター



旭5号橋は、296.5mの4径間連続非合成箱桁橋。桁架設は終点側から順次施工しており、現在はP2-P3間の桁を架設中であった。

横河ブリッジ現場代理人の今田安男氏からパワーポイントで説明を受けた。これには、今日の午前中に撮影した現場写真も含まれていた。我々のためにわざわざ準備していただいたのは明らかで、大変有り難いと感じた。



パワーポイントにより分かり易く工事概要の説明をしていただいた。



現場を案内をしていただく横河ブリッジの前原部長，小原部長，今田次長らの皆様。



橋の上で記念撮影



架設された橋桁の上にかかるため，全員が用意されていた安全ベルトを装着する。

### 玉造温泉



玉造温泉は，宍道湖に注ぐ玉湯川の兩岸に20数軒の旅館が建ち並び，鳥取県の三朝温泉と並び山陰を代表する温泉地。「佳翠苑 皆美」（かすいえんみなみ）に宿泊した。「松江しんじ湖温泉 皆美館」と同じ系列の旅館である。

皆美は家伝の「鯛めし」が有名。ご飯の上に「鯛の身のそぼろ，ゆで卵の黄身，白身，大根おろし，ねぎ，わさび，海苔」を乗せ，鯛のお出しのおつゆをかけて食べる「茶漬け」である。

以前，皆美館で食べた鯛めしの味が忘れられなかったため，ホテルの売店から冷凍の「鯛めし」を自宅と東京にいる娘のところへ宅配便で送って貰った。



桁の架設状況



質問にも丁寧に回答していただいた。



18時30分より宴会。開会の挨拶をする筆者。



乾杯の音頭をとる西岡南海男顧問。



最後は、吉田副会長による一本閉め。



皆美では宿泊客に提灯を貸してくれる。浴衣姿でこの提灯を持って、旅館の前を流れる玉湯川沿いを散策すると風流である。

女性客には、美しい柄の浴衣が用意されてお

り、好みの浴衣を選べるようになっている。随所で温かいおもてなしの心を感じた。



八岐大蛇退治神話のブロンズ像



因幡の白ウサギ神話のブロンズ像

翌朝、温泉街の周囲を散策する。散策コースの脇に、古事記に登場する神話を題材にしたブロンズ像が設置されており、カメラのセルフターマー用のスタンドも設置されていた。一人で散歩をしながら記念写真を気軽に撮れる。



温泉街に、日本最古の温泉地の建物としては若干違和感のある近代的な建物が出来ていた。玉造温泉「ゆ〜ゆ」である。

玉作りの「玉」がイメージされた、三角形と半球体を組み合わせた斬新なデザイン。島根県出身の建築家・高松伸氏の設計である。

玉造温泉では唯一の日帰り温泉施設で、観光客はもちろん地元民にも親しまれているようである。



温泉街を東に上がった丘陵地に「出雲玉作史跡公園」が整備されていた。園内には古代の工房跡や竪穴住居が復元されていた。



「出雲玉作史跡公園」の勾玉（まがたま）



温泉街の上流の玉湯川



玉湯川に架かった木橋の歩道橋



玉作湯神社の前に架かっている宮橋



玉作湯神社



出雲玉作跡からの出土品収納庫



玉作湯神社の境内にある願い石



8時の出発前に、佳翠苑皆美の前で全員で記念撮影

### 出雲日御碕灯台

出雲日御碕灯台（ひのみさきとうだい）の高さは43.65m。石積みの灯台としては東洋一の高さである。「世界の歴史的灯台100選」に選定されている白亜の灯台が、澄み切った青空にそびえる姿は何とも頼もしい。

おいら岬の灯台守は  
妻と二人で 沖ゆく舟の  
無事を祈って灯をかざす 灯をかざす  
灯台を眺めながら、木下恵介監督の映画「喜びも悲しみも幾年月」の主題歌を無意識に口ずさんでいた。



白亜の灯台



入館料 200 円を払って展望台に上る。急な螺旋状の階段を163段上らなければならない。上ったのは我々3人だけ。これから日本海やおおし浜を一望できる。



上部デッキからの展望。360度広がる絶景は「日本の自然百選」の一つ。奇岩や絶壁など大迫力の景観が目飛び込んできた。

## 出雲大社

出雲大社は「いずもたいしゃ」と通常読んでいるが、正式名称は「いずもおおやしろ」。大社を名乗ることが出来るのは、ここだけ。

祭神は、大国主命(おおくにぬしのみこと=だいこくさま)。縁結びの神様である。

祭神が住む国宝の本殿は、1744年に建設され、以来、1809年、1881年(明治14年)、1953年(昭和28年)に檜皮(ひわだ)葺きの屋根の葺き替え工事が行われている。

2008年(平成20年)4月に祭神を拝殿に移し、葺き替えが終了した今年の5月に元の本殿に戻された。60年振りの遷宮とあって、出雲地方に観光客がどっと詰めかけている。



土産店「観光センターいずも」の方に1時間かけて出雲大社の観光ガイドをしていただく。



岐阜県春日村産の「さざれ石」。学名は石灰質角礫岩。長い年月の間に溶解した石灰石が多く的小石を集結して次第に大きく成長した。

国歌「君が代」で、「君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて 苔の生すまで」と歌われている、あの細石(さざれいし)である。



波と玉に向かい合う大国主命の像



祭神を本殿から拝殿に移すため、新たに建設された仮拝殿。遷宮後は撤去される。

遠くから眺めると立派な造りであるが、プリント合板で出来ている。



祭神が一時安置されていた拝殿。



境内の発掘調査で見つかった古代の本殿の心柱と、心柱から想像される古代の本殿。



奥の高い屋根の建物が国宝の本殿。



本殿の屋根の檜皮葺の模型



地面に描かれた3つの円は、発掘調査で出土した古代本殿の心柱場所。



西側から眺めた本殿。祭神は西を向いて鎮座している。祭神と向き合って参拝したい人のために西側にも拝所が設けられていた。



一般の神社の参拝は「二拝二拍手一拝」であるが、出雲大社は「二拝四拍手一拝」。

正しい参拝の仕方は以下の通り。

- ①お賽銭をうやうやしく差し上げる。
- ②鈴を鳴らす。
- ③二拝（二礼）四拍手
- ④氏名、住所、感謝の言葉を述べる。願い事があれば続いて述べる。
- ⑤一拝（一礼）する。



日本一の巨大しめ縄が掛けられている神楽殿。このしめ縄は6～7年に1度の割合で掛け替えられている。

#### 島根ワイナリー



JAが経営する島根ワインの製造工場



今年、高知工科大を卒業して(株)高知丸高で勤務している土居永典君。



ワインの無料試飲コーナー。甘口、辛口の白ワイン、赤ワイン、ロゼワインなどを味わうことが出来る。調子に乗って飲むと酔っ払う。



南ヨーロッパにきたような錯覚に陥る。



バーベキューハウスで豪華な昼食。島根和牛、出雲そばなど沢山ありすぎてとても食べきれなかった。

## お菓子の壽城



米子自動車道・米子 I.C に近くに米子城をモデルにした「お菓子の壽城」がある。菓子工房では、でき上がりまでの全工程をガラス越しに見学できる。

出雲大社の「平成大遷宮」の影響であろう。ここも島根ワイナリー同様に観光客で溢れていた。

## 謝 辞

現場見学では、五洋・本間 JV、東亜・みらい JV、横河ブリッジの皆様大変お世話になった。我々のための完璧な準備、皆様の温かい心に感動した。心より感謝申し上げます。

玉造温泉は 4 度目であった。寂れた温泉地が多い中で、ここは活気に満ちていた。出雲大社遷宮の影響もあろうが、温泉街の人達のおもてなしの心が客を引きつけていると感じた。

出雲大社の駐車場は、観光バスやマイカーで満車状態、境内は参拝客で溢れていた。「平成の大遷宮」のパワーはすごい。島根ワイナリー、お菓子の壽城でもその影響が見られた。デフレ不況など全く感じられない盛況ぶりであった。

建設業界、測量・設計業界はアベノミクスで多忙を極めている。そうした中にも関わらず、たくさんの会員が見学会に参加して下さいました。心から御礼申し上げます。

特に、関係機関の担当者と見学会の打ち合わせをされ、資料作成に骨を折られた岡林理事と森下理事、旅行会社と打ち合わせをされた吉田副会長、そして会計の西川理事に感謝申し上げます。

第一コンサルタンツの西森哲也君が撮影した写真を何枚か使用させていただいた。